



2023年に完成予定の急性期診療棟の予想図—産業医科大提供

新急性期診療棟 建設へ安全祈願

産業医科大 23年8月開院目指す

八幡西区の産業医科大大病院が25日、高度急性期医療に対応する新診療棟の建設開始に合わせ、安全祈願祭を開いた。2023年8月の開院を目指す。地上5階建てで全205床。急性期に特化した17の手術室や総合周産期母子医療センターなどで構成する。新型コロナウイルス後を

見据え、感染症に対応する設備としてICU（集中治療室）に陰圧個室を設け、NICU（新生児集中治療室）の面会室にはウェブカメラを使った専用室を設置する。産業医大の生田正之

理事長は「高齢化も進む北九州医療圏で高いレベルの医療をリードしたい。国際化で人の交流が止められない中、さまざまな感染症に対応する心構えで整備していく」と話した。

【青木絵美】

(掲載について毎日新聞社許諾済、無断転載 (コピー、スマートフォン等での撮影) 禁止)